

# 宮古教育時報

発行者 沖縄県教職員組合

宮古支部 情宣紙

TEL 72-3328 FAX 73-2603

E-mail: [otu-m@miyako-ma.jp](mailto:otu-m@miyako-ma.jp)

◇各分会の情報をお知らせ下さい。

## 新春ライブ&トーク大盛況

女性部主催、2010年新春公演会「下地勇さん新春ライブ&トーク」が2月26日(金)宮古教育会館で行われました。女性部の皆さんをはじめ多くの組合員と家族達が下地勇さんの話題豊富なお話しと美声に酔いしれました。

知る人ぞ知る宮古のあばらぎ青年(ニシエイ)下地勇さんは、押しも押されぬスーパースターの街道まっしぐらの今日、忙しいスケジュールの合間(前日は、宮古のライブハウスで文化庁主催のイベント実施、当日は鏡原中で道徳の授業にゲストティーチャーとして約90分の「命・生きる」について歌を交えながら講話を行い、その足で教育会館へリハーサル&本番という過酷な日程にも拘わらず、終始笑顔でした。《感謝》を縫って宮古支部の新春講演会に駆けつけてくれました。

講演会前には、サプライズ前座として政彦丸こと下地政彦氏(西城中分会)が(同じ名字)下地繋がりて綾小路きみまろ顔負けの漫談を披露してくれました。流暢な喋りに場の雰囲気も和み、スムーズに下地勇トーク&ライブが始まりました。トークでは、勇さんが日頃考えていることやミュージシャンとしての経験を通して思ったことを、時に哲学者のように、しかし分かり易い言葉で語ってくれました。最近「換気扇理論?」なることを実践しているとか。つまり、空気が淀んだ所では良いことが起きないので、外出時には換気扇を回して家を出るようにしているとのこと。また、何かひとつでも継続して行っていこうと、家に居るときは布団を毎日干したり、掃除機をかけるように日々実践しているとのこと。近所の人からは、「家に喘息持ちの子どもがいると思われるかもしれない」等と、ユーモアを交えながらことばを紡ぐように語る勇さんでした。そして、昨年末の演奏旅行で訪れたジャマイカでのことやキューバの修道院でのライブの話では、会場が大爆笑の渦に巻き込まれました。もちろん、歌も素敵で、歌詞の解説も交えながらデビュー当時の歌あり、最新の歌(コマーシャルでよく流れている「南の島〜」)も披露してくれました。サービス精神旺盛で、講演会終了後もサインに応じるなど何とも贅沢な一時でした。本当にタンディガータンディでした。



### カムバックセミナー開催

2月11日(建国記念の日)育児休業中の皆さんを対象にしたカムバックセミナーを開催しました。(共催:沖教済)子育て真っ最中のお母さん教職員に呼びかけて、情報交換とお母さん同士の交流の場としています。事務職員の牧志さん夫妻と平良利江子さんの協力の下、事務手続きをはじめ詳しい説明や資料が提示され、充実した情報提供で参加者から大変喜ばれました。後半には、ケーキやコーヒータイムで復職の不安など積もる話しもあり、とても充実した内容でした。

## 子どもと向き合うゆとりを学校に取り戻すための署名（341筆）教育長へ手交と要請！

宮古島市教育委員会にて

1月中旬からの署名取り組みで、各分会から341筆の思いを集約し、教育の日の翌日2月22日（月）に、下地恵吉教育長へ署名の手交と子どもと向き合うゆとりを学校に取り戻すための要請を行いました。2月いっぱいまで辞任の意向で忙しい中にも、しっかりと対応してくれました。

この要請では、子どもと向き合う時間とゆとりを取り戻すため、具体的な取り組みを学校現場としっかり話し合うことを中心に、以下のことを要請、回答を得ました。

2. 教職員の多忙化を進行させ、子どもの人権を侵害するおそれのある「生徒指導支援カルテ」の新たな導入はしないこと。
3. 研究指定校や学力向上対策の発表会等の在り方を見直すこと。
4. 「全国学力テスト」の実質的な悉皆調査になる希望参加をしないこと。
5. 授業や子どもの指導に直接関係しない調査・報告物などを厳選すること。
6. スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの人的な配置を進めること。
7. 労働安全体制を確立し、実際に機能させること。

### 回答

2. 現在、休止しているカルテについて、教育委員会が回収し破棄する。個人情報保護条例からそのようなカルテは相応しくない。
3. 指定校は学校が県教育委員会や文部科学省から受けるもので、委員会としては「引き受けるなどか引き受ける」ということは言えない。委員会は予算の補助をする程度。また、発表の持ち方も学校が決めることで、1年次から分厚い報告書や研究授業等の形をとる必要はないが、それも含め学校側が決めること。
4. 「全国学テ」は抽出以外は学校からの希望なので、委員会として「やれ・やるな」とは言えない。抽出でも断る学校もあったが、それでも良い。
5. 教育事務所からの調査・報告物などが委員会と重複しないよう、まず、委員会に打診するように事務所へは要請報告物等の精選に努めている。ただ、議会むけの場合、急な報告等で負担を強いているのは申し訳なく思っている。
6. カウンセラーはなかなか見つからないが、ソーシャルワーカーは確保している。（支部からはソーシャルワーカーの育成を要望した。）
7. 労働安全体制については、宮古島市教育委員会として独自に設置していないが、宮古島市（自治体）としては設置されており、産業医もいるので学校現場も適用可（調整中）

その他に、「教育の日」について話しをしました。委員会としては、現場と保護者へのアンケートを踏まえ実施しており、「多くの保護者からは今のような実施方法が良い。」との回答を得ているとのこと。支部としては、委員会と学校長（現場の声）との話し合いを充分にするように要請した。また、支部独自のアンケート等を実施しながら、教育の日の持ち方や必要性の有無等についての現場からの意見集約をする必要があると考えています。

《忙しい中にも341筆もの署名協力ありがとうございました。》

### 副教材仕分け学習会のお知らせ

3月5日（金）18：00～より1時間程度、新学習指導要領移行期の副教材等についての学習会を宮古教育会館2Fで行います。（主催：沖縄県教材教具研究会）対象は全小学校教諭です。講師は西林徳人さん（株式会社新学社 小学事業部 部長代理）一人でも多くの参加をお待ちしております。